

5 住宅・住環境

～いつまでも住み続けられる鎌倉らしい住宅・住環境のまち

<基本計画の目標>

年齢構成バランスに配慮した住まいづくりを進めます。
鎌倉らしい住宅・住環境の保全と創造をめざします。
災害に強い安全な住環境の確保をめざします。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市営住宅入居者 募集倍率(－)	市営住宅募集期間における募集 倍率	14.4 倍	11.4 倍	17.4 倍	13.7 倍	13.0 倍	13 倍	5 倍
若年ファミリー層 の定住促進の状 況(＋)	日常生活の中で、隣近所から子 どもの声が聞こえる市民の割合	68.6 %	72.7 %	75.7 %	79.9 %	78.7 %	70 %	71 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状 況について、市民が実感している 割合	54.4 %	52.1 %	50.7 %	57.6 %	57.7 %	59 %	64 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価：◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・都市整備部

<昨年度からの課題>

- ・空き家住宅を活用した若年ファミリー層の転入及び定住促進を図る。
- ・あんしん賃貸支援事業による高齢者の民間賃貸住宅への入居支援を実施する。
- ・鎌倉市営住宅ストック総合活用計画の見直しを行う。

<進捗>

- ・住宅政策の推進を図るため住宅政策アドバイザー制度を創設した。
- ・高齢者の住まい探し相談会を実施した。
- ・鎌倉市営住宅ストック総合活用計画を補完するための鎌倉市営住宅長寿命化計画を作成した。

<課題>

- ・住宅政策アドバイザーの助言による空き家住宅紹介システムの更なる検討
- ・あんしん賃貸支援事業の対象拡大の検討及び不動産協力店登録の促進
- ・鎌倉市営住宅の総合的整備計画の策定に向けた住宅政策の見直し

担当部の評価

○

・都市調整部

<昨年度からの課題>

耐震改修促進計画に基づき、耐震診断の窓口相談、現地耐震診断補助、木造住宅耐震改修工事費等補助、危険ブロック塀等対策事業補助等の事業を実施し、耐震改修を促進する必要性がありました。

<進捗>

平成21年度は、耐震診断の窓口相談67件、現地耐震診断補助55件、木造住宅耐震改修工事費等補助8件、危険ブロック塀等対策事業補助7件行いました。

<課題>

市民の方々にこれらの事業を活用していただくことにより、さらなる耐震改修を推進していく必要があります。

担当部の評価

○

<今後の展開(取組方針)>

・都市整備部

- ・若年層の定住促進や高齢者対策について自治町内会等への聴き取りにより現状を把握する。
- ・あんしん賃貸支援事業による子育て世帯への支援の要否及び方策を検討する。
- ・第2次鎌倉市住宅マスタープランの見直しを行うための体制を整備する。

・都市調整部

- ・耐震改修促進計画に基づき、耐震診断の窓口相談、現地耐震診断補助、木造住宅耐震改修工事費等補助、危険ブロック塀等対策事業補助等の事業の更なる推進に向けた積極的な啓発活動を継続して行います。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・人口構成のアンバランス化（高齢人口比が高い）を解消するために、若年ファミリー層世帯の転入促進の施策を行っている。
- ・問題点の把握のために若年層の定住促進や高齢者対策について自治町内会等への聴き取りを計画する等、常に現状把握に努めている。
- ・住宅政策アドバイザーといった役割をおくことで住まいへの関心が高まり安心して暮らせる住環境を考える機会を与えており良い取り組みであろう。



課題・提言

- ・良好な住環境がある一方で、敷地規模の狭小な住空間の出現、景観に配慮されていない中高層住宅などへの対策など鎌倉独自のルールやガイドラインを運用していく必要がある。
- ・高齢世帯を駅周辺の高齢者住宅に誘導し、元の住宅を若い世代に貸すような新たなしくみの支援を検討していく必要がある。自治体とも協力して高齢者に対する住環境改善も必要。鎌倉市営住宅長寿命化計画の具体的例示が欲しい。
- ・危険ブロック塀は市内で散見される。危険ブロック塀等除却費の助成は認定条件が厳しく活用しにくい。